

# Weekly Report



## 名古屋アイリスロータリークラブ

例会日	水曜日 13:00～14:00	会 長	青木 恭子
例会場	ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋	幹 事	荒山久美
承認	2013年6月18日	公共イメージ 向上	藤谷 猛



ロータリーは機会の扉を開く

2020～2021年度名古屋アイリスRCのテーマ

柔軟性を尊重し活気と充実のアイリスに

●お問い合わせ: office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト: http://www.nagoya-iris-rc.jp

### 第326回 例会

2020年7月22日 13:00～

- 司 会 島村恵三 例会・出席・親睦委員長
- 斉 唱 手に手つないで
- 出席報告 出席者数 18名 / 29名  
出席率 62.06%

### ニコボックス

- 安井忠 会員増強・クラブ戦略委員長  
やっとな梅雨明けが近づいてきました。日本中に大雨が降り大きな被害が出ましたが皆様大丈夫でしたか？またコロナ感染が大幅に増えています。コロナは個人の問題です。また島村君いろいろありがとう。

### 会長挨拶



ウィルスの脅威(驚異)による人々の戸惑い、お互いの不信感、苛立ち、孤立など様々な人間関係の崩壊に向かっている様子を、テレビなどを通して皆様が思っているのではないかと感じられるこの頃となりました。

今朝の報道では、世の中を背負う働き盛りの30代～40代が罹り、そして家族へと人類は何度も危機を乗り越えてきたけれど、私の時代にこれが来たかと最近危機感を抱くようになりました。でも報道データのみを見ての判断なので確信も持てないと感じ、少し冷静にもなりたいと思います。

ロータリーの活動も暗中模索ということです。荒山幹事がいつも危機感を持って沈静していた時もアドバイスしてくださいました。つい大丈夫と思ってしまう私に「青木会長！高齢、持病持ちということを忘れないように！」(「持病持ち」は聞こえも響きも悪いので今後は「基礎疾患有り」に改めます。荒山談)辛口に聞こえる彼女の言葉は、本日の感染者数:愛知 53人、大阪 72人、福岡 53人、東京 237人と、「やって来た！」的中！しました。

連休を控えて、自分を守りましょう。お互いに不信感を持たないようにしたいと思います。つい先日、あの若き美しい俳優が亡くなりました。あの日の輝きをも

っと見たいと思いつつ、これもコロナ禍による孤立感をもたらしたのかもしれないと思います。

### 幹事報告



7月22日 幹事報告  
ガバナー事務所から「2020年7月熊本豪雨災害」義捐金の協力依頼がありました。会員29名分として@1000×29=¥29,000を支援することを例会内で決定しました。ご協力ありがとうございました。

### 委員会出席報告



深見和久 奉仕プロジェクト委員長、加藤正広前幹事、岩田広樹前委員長の3名で7月14日(火)に名古屋観光ホテルにて開催された名古屋市内25ロータリークラブ社会奉仕委員長会議2020～2021年度第1回運営委員会に出席し以下の議題について討議を行いました。

1: 事業提案に対する支援金額の決定について  
2: 2019～20年度決算について  
3: 名古屋市内25ロータリークラブ社会奉仕委員長会議の継続について  
4: 2020～21年度予算について  
5: 次年度事業提案の流れについて

### 委員会方針発表

先週に引き続き委員会方針発表が行われました。

#### ●米山奨学委員会 鮑尔吉徳委員長



現在のコロナ禍では米山の活動やイベントがすべてオンラインで行われていますが、それを踏まえ今後の活動をどうするかが問われています。あらためて米山奨学の目的、考え方を理解し米山奨学をもっと知ってほしい、そして若者を増やして行きたい。

【事業計画】① 米山記念奨学月間である10月に会員の勉強を兼ねた卓話を実施する。②個人寄付

を募り、米山功労者を当クラブから多く輩出できるように努力する。③地区から開催案内のある米山奨学委員長会議に出席する。④委員長だけでなく担当委員にも積極的に活動に参加してもらい、優秀な留学生を支援する重要性を理解。⑤個人寄付を募り、米山功労者を当クラブから多く輩出できるように努力する。⑥地区からの開催案内のある米山奨学委員長会議に出席する。

#### ●会員増強・クラブ戦略委員会 安井忠委員長



新型コロナの第2波と思われる感染が広がり日本中、特に愛知・大阪等、日々感染者記録が塗り替えられています。あの3月、4月に全国民がコロナを怖いと思ひ自粛を個人個人で考えた時と比べ5月、6月にピークが過ぎた様な気持ちの持ち方、コロナへの恐怖感が薄くなったのでしょうか。それと感染者数の割に無症状者・軽症者が多く重傷者が少ないとマスコミで日々報道され、特に若い人達は感染しても大した事ではないとの風潮から夜の街やカラオケ等の無防備な生活が一部で見られ、コロナなんか怖くないと言う若者も出ております。正常性バイアス(自分は大丈夫)との考えは人間の性(さが)であり仕方がないとは思いますが。

そんななか安倍のマスク・GOTOトラベル・イート等、国民(県民・市民・知事・市長)と国政との考えのずれが多少見える中、7月20日の中日新聞夕刊のトップ記事にコロナ禍に首都機能分散議論活発化、新型コロナウイルスの感染拡大で東京に人口や企業が集中するリスクが高く、明らかになった事を受け首都機能の移転・分散の議論が活発化している。自民党内では経済や教育分野も含めた地方への分散を検討する動きがある。地方でも期待の声が高まりつつあり政府も 極集中是正を進める方針を打ち出しているという記事が載りました。go-toキャンペーン10万円配布、持続化給付金等の問題で一極集中是正は感染症対策でも経済面からも必要だと自民党は意義を強調しているが、首都を丸ごと移転するという従来の発想ではなく、それぞれの地域に役割分担して代替性の役割も同時に果たす新たな生活様式を探し出し脱一極集中はコロナ禍の今、絶好の好機であると記事が出ています。

確かに今の日本国は何かをしようとするするとそれ国会だ議員だ官僚だとの意見が表に出て地方の知事や市長の意見は後回しになっています。ならば全てが東京でなく全国に権限を与えて、その地域地域で考えようとする意見が出てきても当たり前であると考えます。ハードルは高いがコロナ禍で住民意識に変化が見られ内閣府の調査では就業者の35%がテレワークを経験してと回答しています。西村経済再生大臣も東京一極集中を転換させる大きなチャンスだ

と見えています。

政府は経済財政運営と改革の基本方針と街・人・仕事・創生の基本方針で一極集中を是正する方針を掲げたとしています。日本は東京だけではないという事です。感染防止と経済立て直しをどう解決するのでしょうか。

東大の名誉教授が国会で新型コロナは武漢型・イタリア型・アメリカ型の3つから日本がエピセンター即ち発生源となる東京型・埼玉型が出たと言っています。又、WHOテドロス事務局長は世界は間違った方向に向いていると警告をしています。私達はどこまで何を信じて このコロナから逃げればいいのでしょうか。うつらない、うつさない、3密を避けマスクはどんな時でもつけましょう。

【事業計画】・会員増強 ①アイリスRCに相応しい新入会員の勧誘を全会員に督励する。②本年度の目標である現状維持率100%(退会者ゼロ)と増員10名を達成し、50名体制を早期に実現できるよう全会員で努力する。③入会候補者をクラブ負担で例会に臨席して頂く。④入会候補者の選考を行い、理事会へ報告する。⑤クラブ戦略委員長と共に新入会員の研修、及び会員の退会防止に当たる。⑥地区へ毎月中旬までに会員増減報告をする(所定の書式に記入して返信)。

・クラブ戦略 ①10周年である3年先、5年先を見据えた成長戦略を議論し策定する。②ロータリーの理解を深め、クラブ全会員の質の向上を目指し教育を進める。③ロータリーの奉仕を全員で理解し、人道的奉仕の充実を図る。④意味のある親睦を通じて、役員・理事、若い会員等のベクトルを合わせる。⑤会員全員が、高潔性と多様性、奉仕の心を持ち、リーダーシップをとれるよう教育のシステムを構築する。⑥ロータリーのブランド・マーケティング戦略に基づいて SNS の利用促進、公共イメージ向上、会員基盤の強化を目指す。

#### ●クラブ管理運営委員会(例会運営・出席) 島村恵三委員長



会員数、例会出席者数が減ってきています。どちらかというとも毎回同じような例会が繰り返されマンネリ化しているのではないのでしょうか。何か良いアイデアがあれば島村に伝えて頂けないのでしょうか。私も他クラブへの例会に出席する機会が少なく他クラブの様子が分かるとは言えません。

以前、青木会長や深見礼子財団委員長が東京 RCへ出席したことがあるとお聞きました。このように他クラブに参加され、良いと思われる点があれば是非とも知らせてほしいと思います。色々な切り口で常識にとらわれない例会にしたいと考えております。いずれにしても出席してもらわないと始まりません。なんとか出席数を増やせるよう努力をお願い致します。

【事業計画】①会プログラムや次第の作成及び司会進行を担当する。②会員による卓話のほか、地区委員会や外部スピーカーによる卓話の依頼をする。③例会5分前に入場を促す。④入場時ロータリーバッジ着用の催促、卓話中の私語への注意に当たる。⑤当番制で受付を設置し、12:00 に受付を開始する。⑥例会変更の場合、メーキャップ受付をその週の水曜日 11:30～12:30 に、ANA グランコート名古屋1階に設置し、メーキャップ受付を行う。メーキャップ受付は当番制とし2名で行う。⑦ 地区大会、夜間例会などの設置と受付を行う。⑧誕生日や結婚記念日など、ニコボックスの受付を行い、協力を促す。⑨例会時にニコボックスのメッセージを読み上げ、会員相互の理解親睦を供する。⑩会員相互の親睦を深めるような提案や企画を行うために親睦委員会を開催し協議する。⑪親睦例会は、年4回(クリスマス家族例会含む)行う。⑫会員本人、ご家族に不幸があった場合、全員に伝達、必要に応じ通夜・告別式の受付等の手伝いをする。⑬親睦例会には、新入会員を積極的にお誘いし、既会員との信頼関係構築に繋げる。⑭例会への出席は、ロータリークラブの活動の基礎となるもの。例会に出席し会員相互の親睦を深めると同時に当クラブの社会活動への参加に繋げる。⑮会員各位に対し当クラブの運営が円滑に行われるために2つのことの励行をお願いします。(ア)来月の出欠連絡を当月の最終例会までに報告すること。(イ)出欠に変更がある場合、直ちに例会委員会へ連絡する。

【参考】(ロータリーボイスへの寄稿より)

## コロナウイルスに打ち勝つための 3原則

寄稿者:ジョー・オティン(第 9212 地区ガバナー)

hand washing in east africa 私たちの人生で世界が一転するほどの決定的な瞬間があるとすれば、まさに今がそれに当たります。人類の運命を世界的に変えた第二次世界大戦を生き抜いてきた方々が、私たちの一つ前の世代でした。歴史上、先人たちは耐え難い経済崩壊や壊滅的な武力紛争、気候の大変動など、絶望や死、破滅をもたらす衝撃的な出来事に直面してきました。このような過去の出来事は、私たちが行動方法を見直し、既存の制度を再構築し、生き方を変えるきっかけとなってきました。

新型コロナウイルスによる人類への影響はとてつもなく大きいものです。中国での最初の発生から今日に至るまで、統計が示すように、新型コロナウイルスの世界的拡大阻止を狙った各国政府による初期対応が十分ではなく、世界は今まさにその対応に追われています。ここ東アフリカでも、国境封鎖や国内



感染者の外出禁止、市民集会の中止など、ウイルス拡大に歯止めをかけようと各国政府が前例のない対策を講じています。

人類史における決定的瞬間の特徴を成すのは、危機の性質ではなく、むしろその時に人間が下す判断の適切性であると言えます。各国の政治指導者たちが感染拡大

阻止のために思い切った対策を講じはじめる中、私たちロータリーも独自に判断しなければならないことがあります。これらの判断は、次の3つのシンプルな原則に基づいています。

第一に、この疾病に最も大きな影響を与えるのは一人ひとりの行動であること。これには、個人の衛生習慣、ソーシャルディスタンス(人との物理的距離を空けること)、世界保健機関(WHO)によるその他のガイドラインなどがあります。ウイルス拡大防止のために、私たち一人ひとりが責任を果たす必要があります。

第二に、感染曲線を平らにする政府の取り組みをサポートすること。これは、民間セクターや公共機関、開発団体、社会が一体となってこの脅威を食い止めることを意味します。

第三に、希望のメッセージを人びとに伝えつつ、みんなが力を合わせてこの難局を乗り越えなければならない、また日常生活の中断は一時的であるばかりでなく、生活を継続していくために必要不可欠であるという認識を促すことです。

世界的な状況に照らし、国際ロータリー理事会は今年6月に予定していた国際大会の中止を決定しました。この危機的状況下で、これだけの規模のイベントを開催するのは適切でないと判断したのです。毎年開催される国際大会の全面的な中止は前例がなく、第一次世界大戦、第二次世界大戦の時さえ、規模は縮小されたものの、中止は免れてきました。また理事会も、このパンデミックの克服に力を注ぎ、リソースを割り当てていくことを決定しました。予備金からの資金が世界各地の災害対応支援に充てられており、ロータリー財団もこの分野に特化したファンドレイジングに乗り出しました。

第 9212 地区では地区大会を中止し、顔を合わせる会合を休止するようすべてのロータリアンに指示しました。地区内会員は、すぐさま一般向けのビデオ

会議プラットフォームを活用したオンラインミーティングを全面的に導入。さらに当地区の執行委員会が対策チームを立ち上げ、ケニア、エチオピア、南スーダンの行政をサポートし、パストガバナーのギータ・マネックさんもケニアとエチオピアで2万ドル以上の寄付を集めました。ロータリークラブの存在意義と究極の目的は、助けを必要とする地域社会に寄り添い、支援することです。世界は今、かつてないほどロータリーを必要としています。今を生きる私たちは、人間の幸福に対するこれほどの脅威を打ち砕くために、これまでよりも多くの手段を有しています。私たちには、ウイルス追跡のためのテクノロジー、これに打ち勝つための科学、結束した行動を呼びかけるためのメディア、そしてウイルスという敵に反撃する勇気があります。

私たちの決意とコミットメントを通じて、世界に希望と癒しを与えることができるのです。

## 新型コロナウイルス流行を強く生き抜くための「回復力」の科学

寄稿者：ジェニー・ストッツ（ロータリー第6690地区会員増強委員長）

**回復力 (Resilience)**とは、逆境においても、その状況に適応していくプロセスのことです。人間は衝撃的な出来事やストレスの強い場面に直面すると、脳が多数の神経経路を活性化させ、身体を守る仕組みになっています。このような生物学的プロセスのおかげで、私たちは健康を保っています。そして人はこのような出来事を乗り越えることで成長して変わることができ、また強くなれるのです。

現在、多くの人が新型コロナウイルスのパンデミックという現実と直面しながら日々を送っています。幸いなことに、回復力を大きくする方法がいくつかあります。今回の新型コロナウイルスの流行は、皆が一丸となってロータリアンやクラブの回復力を養い育てることで、ロータリーをさらに強くするチャンスでもあります。そのためのヒントをいくつかご紹介します。

**つながる:**回復力を養う上で大切な要素の一つは、単純に人と「つながる」ことです。まずは仲間のロータリアンと連絡を取ってみましょう。電話で話したり、メッセージを送るのもよいですし、会員がオンライン例会に参加できるよう準備するのもよいでしょう。また各クラブも、ロータリーというグローバルなネットワークに各会員が溶け込めるように、他のクラブとつながることを検討してみましょう。

**大局を見る:**人は逆境が続くと希望を失ってしまいます。だからこそ、現実を見つめ、ポジティブな思考を持ち続けられるよう仲間を励ましましょう。ロータリーク

ラブは現在、例会の新しい形式に適応する必要に迫られ、また会員増強や寄付推進についても懸念が募るなど、困難に直面しています。しかし、この困難は決してロータリーの将来に影を落とすものではありません。私たちの将来は、この難局をどう乗り切るかにかかっているのです。

**健康を保つ:**私たちは、「隔離」や「ロックダウン」、「Zoom 疲れ」などという言葉が一般的に使われるようになった時代を生きています。そんな今だからこそ、仲間の会員と一緒に健康増進、健康第一を心がけましょう。またオンライン例会では、会員自身や家族が実践している健康維持方法を紹介してもらいましょう。休憩が必要な人や、例会に出席できない人、Eメールの返信に数日かかってしまう人にも、優しく対応してあげましょう。今は点数争いや貢献度を競うような時ではありません。優しさをもって話し、耳を傾けましょう。

**目的を持つ:**人を元気づけると、自分自身の心も満たされます。そうすることで自尊心が磨かれ、目的意識や人の気持ちを汲み取る心も芽生えてきます。まずは、実行可能かつ達成可能な奉仕活動を仲間と一緒に計画してみましょう。また、現在進行中の大規模なプロジェクトと並行して小規模なプロジェクトを実施することで、会員一人ひとりが奉仕活動に参加しやすくなります。

**感謝する:**人は感謝の気持ちを心で受け止め、意識的に考えることで力を得ています。感謝されることで、セロトニンやドーパミンといった神経伝達物質の放出が促進され、喜びや幸せを感じやすくなります。ですから、ほんの少しだけ時間を取って仲間に感謝し、またクラブの全会員から地域社会やパートナーに感謝の気持ちを示す機会も作りましょう。

皆がお互いを気遣うことができれば、回復力を養い育てるための道を切り拓くことができます。このような努力を組織レベルまで拡大することで、ロータリーの新たな潜在能力が解放され、クラブの強化、会員体験の向上につながります。



世界は今、回復力、適応力、強さを兼ね備えたロータリアンとロータリークラブを必要としています。お互いを思いやる気持ちは大切ですが、自分自身を気遣うことも忘れないでください。あなた自身も、大きな回復力を備えた最高の自分になるべき大切な存在なのです。